

時事新報の編輯に關する書信に於て往々社員へ宛御送の向電有之候得共宛名の社員不在は事ありて折角の報達も其用を爲さざると察せらるれば斯る書信は一切時事新報編輯局宛にて御送付被下度候

時事新報定價 時事新報一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價選送料廣告料ハ左ノ如シ
○一箇月前金五十圓 ○三箇月前金一圓五十圓 ○六箇月前金三圓
○一箇月前金一圓 ○三箇月前金一圓 ○六箇月前金三圓
○一箇月前金一圓 ○三箇月前金一圓 ○六箇月前金三圓

時事新報廣告料前金

一行三行	一行二行	一行一行
六日以上	七日以上	八日以上
十五日以上	十六日以上	十七日以上
二十日以上	二十一日以上	二十二日以上
二十三日以上	二十四日以上	二十五日以上
二十六日以上	二十七日以上	二十八日以上
二十九日以上	三十日以上	三十一日以上

時事新報

宗教の要

宗教の要 宗教の要は宗教の社會中に於ては唯我輩に於ては祖先傳来の性質を享けたるに由るか之に向ては特に其だ淡泊なるものなり斯く淡泊なるも實は其興味を知らざるに坐するものならんれば宗教の理非邪正は俄に之を斷ずることを爲さざれば唯身は全く局外に在るが故に宗教が果して社會の人事に功徳を興ふるや否やを窺見するに當りては自ら其明なきに非ざるなり蓋し下流人民の社會に於て宗教を稱すべき宗教の行はるる處は蓋し其醜陋の所爲を見るを稀にして無宗教の里は必ち其醜陋の所爲を見るを稀にして無宗教の里を解せざるもの多き其次第は之を歴史に徴し又今日の實際を見て歴々知るに足るべき所あれば宗教は實に人意を和するの功徳あるものなりと決して争ふ可らざるものし如し果して然りとすれば我輩は宗教の理非邪正を知る者に非ずと雖も唯これ功徳の最も多死所に從はんと欲するものにして其趣は唯愛と數種の酒を並べて其水分の多少、酒精の如何と吟味せんとするに化學的の分析を要するに似て我輩は化學士に非ざるが故に容易に何れと長し何れを惡しとせんと能はざれども之を飲用して酔心のよきものは先づ以て最良の酒となすに異ならず左れば耶蘇教にまれば佛法にまればその實際に功徳の多きものは國內に勢力を得んとこそ望まし死次第にして世間我輩と此感を得んとする人も亦蓋し少ならず可きを信するなり

す等しく父の言ふ所甚だ理むと雖も其行ふ所、非にして言行相離するときは子は其言を耳に聞かずして竊に之を侮るのみか却て其行を目に見て之に倣ふの事實は古來今に至るまで世人の普く知る所なり左れば宗教家たる者は假令へ私徳の要を知るも唯これを口に説くのみにして自身の私に修せざるに於ては千遍萬遍の說法も徳教外の空談たるに過ぎざる可し我輩は今日世に行はるる諸宗教の中を就て孰れか最も内行私徳に因縁深きやを以て共に何れの宗教家が最もよく此徳育の任に適すべきや彼の宗教にあるか、此の宗教にあるか、亦同宗教の内にて何れの部分に云々にして何れの部分は斯の如しと其實際を吟味して更に又論ずる所あらんと欲する者なり

官報

警察令第七號 明治十四年(十二月)甲第五十五號布達馬車取締規則第二條改訂ノ下「馬丁」ノ二字ヲ加ヘ但「下」ノ「駁者」ハ「ノ」三字ヲ挿入ス
但從前鑑札ヲ受ケタル馬丁ニシテ二十歳ニ滿テサル者ハ本月三十日限鑑札返納ス
警視總監子爵三嶋通庸
明治二十一年
六月二十日
東京府知事男爵高崎五六
辭令

御用有之三池鐵山局(出張チ命ス)六月十九日大藏省醫科大學教授 小金井良精

鐵道運輸收入 去月中鐵道局運輸收入は左の如し(鐵道局)

旅客貨金 貨物貨金 合計

東京	一、五二〇、〇〇〇	六、五四九、七九〇	八、〇六九、七九〇
神戶	一、二五八、八一五	一、六三八、七三〇	二、九一七、五四五
大阪	一、五九二、四四〇	一、五五六、六七〇	三、一四五、一一〇
長崎	一、四七三、三三〇	一、五五八、六二〇	三、〇三二、九五〇
津	一、四六四、三三二	一、八〇五、五三〇	三、二七〇、八六二
浦和	一、五五五、一〇〇	一、八三三、八五〇	三、三八八、九五〇
合計	一、五五八、〇二〇	六、四四二、二六八	八、〇〇〇、二八八

桑葉騰貴の原因 上州に於て本年桑葉の非常に騰貴せし爲め繭兒の飼養に當りて川に棄て土に埋むるもの少からざる趣は去る十四日の本紙上に掲載せし所なるが右桑葉騰貴の原因なりとて同地方の其道に精し人より投寄したる所を見るに

- 第一 近來農民は養蠶の利益を悟り給桑の分量を計らして妄に原種を増殖せしむる事
- 第二 本年は例年に比し蠶の發生凡一週間も早くまて桑葉の繁茂に恰當せざる事
- 第三 氣候寒冷の爲め四眠起より上達迄の日数は平年より凡そ二三日間も長し然るに不馴なる多數の養蠶家一日の分量を平年と均しく與へたるが故に繭兒は食盡す能はずして冗費に屬するもの多き事
- 第四 通常の養蠶家は近來養蠶に關する各社、各組合より教師を聘するものと多し然るに各社にても熟練なる教師は他府縣の聘に應じ又養蠶研究の爲め他方へ

出張せる者多く多數養蠶家の需に不足を生じ爲めに未熟の授業生等と各町村へ派遣すると云ふれり此等の教師は單に收購にのみ意を注ぎ桑葉を冗費して損失の點を第二に置くことれば自ら不足を生ずるに至る事

以上の諸因相合して本年桑葉の欠乏を告げたるとなるが同様の養蠶地と云へば先づ長野、佐位、那波、甘樂、等を最とすべし而して長野、多胡、北甘樂三郡の如きは其收購高凡そ前年の半額に過ぎざるべしと云ふ

日本鐵道會社の貨物 總て地方に於ける貨物出入の増減は農事の繁簡に依る事なるが昨今仙臺地方は田植に忙しく又福嶋前橋近邊は蠶桑の時節なるを以て同地方の人民は何れも貨物仕入の暇なきより例年の通り同會社の貨物は頗る少き由なり

脚氣病者

脚氣病者 脚氣病者が郵便會社の汽船に乗込み神戸横濱間を往復するに際し航海中に死する者毎年八九名に及ぶ事ありて初め乗込み時は左程の重症にもあらざる者が俄かに差重る者の如く畢竟船の動揺すると共に心臓の鼓動を促し終に衝心症に變ずることにてあらんか兎に角船中斯く死者を生ずることありては不都合なればとて同社に於ては原因を窮めん爲め其筋へ取調と請求する等ありといふ

織物學校設立の計畫

織物學校設立の計畫 我國に於ても凡て織物と爲すには縱絲は何處産横絲は何處製と略ぼ定りありて各地の織物所に於ては皆な其供給を一二の産地に限る事なり左れば其地に於ては専ら縱絲を産出するもの多し自ら差別あり我國の生絲の如きは或人の話に依れば西洋にては縱に用ふるものと云へど之れは甚だ不分明のことにして我國の製絲に従事する人は我國の絲の其縱に用ひらるるや又た如何なる織物に如何なる質の絲を用ふるや其邊は少しも知らずして唯失竊に輸出するを以て其賣捌の上に非常の不便あるのみならず我國の製織家も一應縱絲或は横絲に従事して精巧を得る能はざるの傾きあるを以て若し佛國織物學校の如きものを我國にも立て西洋の反物を我國にて織り學問上の考を以てする時は其我國の絲を以て織る間に何の反物何の織物に於ては斯く之の絲の適する事を發見するに至らん然る時は其經驗に依りて知り得たる絲を製造して西海へ賣出する事と爲さば日本生絲は賣捌の上にも將來非常に好都合を來すべしとの事に於て昨今織物の事と關心なる人の中には奔走中なりと云ふ

愛知醫學校

愛知醫學校 地方税の支辨を離れてより各府縣の醫學校は大抵廢絶するに至りたりしが愛知醫學校は其後引續き獨立維持して今日あるを得たるに付該校及び附屬病院にては本月一日を以て獨立記念會兼第九回卒業證書授與式と施行せしに當日は大谷派管長大谷光榮法蘭、黒川第二師團長、勝間田同縣知事代理柳本書記官、山縣書記官等來賓凡そ數百名あり大谷法蘭に式典に先立ち病院に於て患者を對し慈悲餘りある演説を爲し又式場にては知事代理柳本書記官の祝辭及び法蘭

代濕美製

代濕美製 代濕美製の盛況は百名に上り者九十餘且つ近來を増築して油は至てたる礫、いとの事ラガン氏は左の如

大坂製

大坂製 大坂製は至てたる礫、いとの事ラガン氏は左の如

生絲

生絲 生絲は至てたる礫、いとの事ラガン氏は左の如